

あいち農産物生産流通レポート

平成22年3月号

情報サロン		
・第10回 全国菜の花サミットin田原が開催されました	(食育推進課).....	1
地域トピックス		
・第53回日本花き生産者大会あいちが開催されました	(東三河農林水産事務所).....	2
東日本情報		
・春野菜を『あいちフェア』でお届けします	(東京事務所).....	3
西日本情報		
・平成21年度 第2回卸売市場活性化実務講座について	(食育推進課).....	5
フラワーページ		
・お花をさがして、バリへGO!!	(東京事務所).....	7
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		8
・名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し		9
花 き		
・切花・鉢花の3月の見通し(県内市場)		21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2009年12月)		25
関連指数		26

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

第10回 全国菜の花サミット in 田原が開催されました

平成22年2月6(土)7日(日)に田原市で、菜の花エコプロジェクトを通し、食やエネルギーの問題をはじめ、次世代に引き継ぐことができる豊かで活力ある地域社会、資源循環型社会の形成について考えることを目的とした、第10回全国菜の花サミット in 田原が開催されました。

全国菜の花サミットは、資源循環型の地域づくりを目指すNPO法人「菜の花プロジェクトネットワーク」が全国各地で毎年開催しているもので、今年で10回目を迎え、今回は26都道府県80団体から約600名の参加がありました。

初日の6日には、田原市総合体育館で基調講演と事例報告、パネルディスカッション、サミット宣言、各種のパネル展示などが行われました。

会場では、都市ジャーナリスト 森野 美徳氏による基調講演「菜の花エコプロジェクトの展望」に続き、田原東部小学校における菜の花油づくりや、豊田市のNPO法人による廃食油を再利用する活動の報告、油脂会社によるバイオディーゼル燃料精製の取組み、愛知県農業総合試験場による菜種の適正品種と栽培技術の確立に関する研究などが事例として報告されました。



会場の様子

パネルディスカッションでは、菜の花プロジェクトネットワーク代表の藤井 絢子氏をコーディネーターとし、エコプロジェクトに携わる6名のパネリストが今後の展望と課題について議論され、バイオ燃料の品質向上による使用量拡大の必要性、地域の観光資源としての菜の花の有用性、種子の確保、交雑、雑草対策が課題であること等が話題になりました。藤井氏からは、地域の力を資源にしてほしいとの呼びかけがありました。



分科会 (菜種の生産・搾油事業について)

シンポジウムの最後には、次世代に「菜の花プロジェクト」を通して農業の大切さを伝え、食・エネルギーの持続的な確保と地域経済を支える資源循環型社会の実現に向けた「サミット宣言」が読み上げられました。

翌7日には、2つの分科会(菜種の生産・搾油事業について、 バイオディーゼル燃料事業について)で参加者による活発な議論が行われたほか、全国一の農業産出額を誇る田原市の農業や環境の取組みへの視察が行われました。

菜の花エコプロジェクトとは ...

菜の花を栽培し、なたねから油をしぼり、油かすは肥料や飼料にする一方で、食用に利用したなたね油を回収し、軽油代替燃料などに再生利用する取組み。

第 53 回日本花き生産者大会あいちが開催されました

平成 22 年 2 月 9 日（火）及び 10 日（水）、蒲都市を中心に、全国の花き生産者の相互の交流を深め、生産及び流通技術の研鑽と花きに対する生産意欲の高揚により花き農業の振興発展に資することを目的として、愛知県、（社）日本花き生産協会、愛知県経済農業協同組合連合会及び愛知県花き温室園芸組合連合会の 4 者による実行委員会主催で、第 53 回日本花き生産者大会あいちが開催されました。

参加者は、北は青森県から南の沖縄県まで生産者約 1000 名の参加がありました。

初日の 9 日（火）には、蒲都市民会館で大会式典とパネルディスカッション、園芸資材等展示会などが行われました。

大会会長の神田真秋愛知県知事（代読高尾和彦副知事）は冒頭の挨拶で「花は暮らしに潤い、やすらぎを与え生活に欠かせない。消費低迷のなか、愛知県では、生産振興、フラワードーム、フラワーウォーク運動などを行っている。本大会を契機に消費の拡大を願いたい。」と述べられました。



大会式典

このほか、竹森三治東海農政局長（農林水産大臣祝辞代読）などの来賓から祝辞がありました。

パネルディスカッションは、米村浩次米村花きコンサルタント事務所長をコーディネーターとし、福井博一岐阜大学教授始め生産者、流通業者など 6 名のパネリストが花の消費について議論し、「生産者として、価格よりも

付加価値を追求していきたい。」「1 つでもよいから消費者に情報が欲しい。」「生産者は顧客情報を怠ってきた。また、自分の商品に自信をもって PR して欲しい。」「時代の流れの変化を自分で受け止めて生きてほしい。」などの意見がありました。

翌 10 日（水）は、切花 2 コース（田原地区、豊川・豊橋地区）、鉢物 1 コース（田原・豊橋地区）、切花・鉢物 2 コース（西尾・知多地区、幡豆・安城地区）の 5 コースに分かれて産地視察が行われました。

功労表彰については次のとおりでした。

（愛知県関係分）

- ・間瀬利哉（愛知県花き連）
- ・レインボーバラ共選組合

次の開催は、2 年後に近畿ブロックで予定されています。



田原市内の切花産地視察

春野菜を「あいちフェア」でお届けします。

東京都内では、農産物の消費拡大を狙ったイベントが一年を通じて数多く開催され、どのイベントも本当にたくさんの方が訪れ大盛況です。こういった比較的大きなイベントは、華やかさもするため、一度に不特定多数の人々に産地の情報や自慢の農産物を知ってもらうことができ、消費拡大に繋がる手段としては欠かせないものです。しかし、1日だけや短期間のイベントでは人の記憶に残らず、継続的に行うには相当の労力（＝費用）が必要となります。

これを補う手法として、農産物を買っていただく消費者に最も近い存在である量販店での草の根的な取り組みとして「量販店(スーパー)における産地フェア」があります。

産地フェアは、量販店の店舗の青果売場で行われており、不特定多数を対象にした大々的なイベントではなく、ある特定地域の量販店に買い物に来る消費者へ向けての取り組みです。量販店のお客様はその多くが近所の住民でありリピーターです。日頃から一定の産地の品目を取り扱う量販店であれば、その産地の食材は普段から利用してもらっている訳ですが、改めてフェアを行うことで、その産地の良さや安全・安心をPRし、産地への支持(ファン)を一層増やし消費拡大に繋げる狙いがあります。東京に限らずこのようなフェアは形を変えながら昔から全国で行われており、益々活発になってきています。

さて、本誌12月号でもご紹介しましたが、平成21年11月19日(木)に、知事やJAあいち経済連会長を始めとするJA組合長などが、東京の台所である大田市場でのトップセールスを行いました。これは大田市場の流通関係者に対して、本県産農産物の京浜市場への出荷が本格化するタイミングでの“責任産地”としての意気込みを伝えるためのものでした。

同時に、量販店も消費拡大に非常に大きな影響力を持っているため、大田市場でのセールス終了後には首都圏の大手量販店である「東急ストア」(首都圏91店舗)や「ライフコーポレーション」(首都圏92店舗)に対しても、JAのトップや県の幹部が出向いての販売促進要請活動を行い、「愛知県の産地フェアをやっていきたい」という要望をいただきました。

量販店でのフェアは、ＪＡあいち経済連を始めとする県内ＪＡも、農産物の旬の時期をとらえ、卸売会社を通じるなどして単発で行ってききましたが、トップセールスの一環として、２月２４～２６日には東急ストアの１０店舗同時開催のフェアが行われました。また、３月７日にはライフでも１５店舗で同時開催される予定です。



過去の量販店フェアの様子(資料写真)

フェアで宣伝する品目はトマト、ファーストトマト、ミニトマト、ふき、春キャベツ、ブロッコリー、スナップエンドウ、大葉などです。本県産春野菜のシーズンでもあるこの時期は、量販店の売り場が春を感じさせる商材へ転換していくタイミングでもあり、積極的に販売を仕掛けていくことが、売場面積の確保へ繋がっていく重要な時期でもあります。

前述したように、量販店のお客様はその地域の住民が大多数を占め、またリピーターであるため、ただ特売として販売するのではなく、野菜ソムリエやマネキン(宣伝販売員)などを配置して、生食や簡単に調理した物の試食を通して、本県産農産物のおいしさをPRしてもらっています。

八百屋さんのような対面式販売でない、セルフサービスの量販店では、農産物を見た目や嗜好だけで選択されることが多いため、「あいちフェア」でお客様に試食していただき、改めて調理方法やおいしさを知っていただくことで、今後の消費拡大に繋がっていくと思います。

もちろん、見た目の良くないものや、味の落ちるものが一つでも店頭に並ぶと、すぐに産地の評価が下がりますので、品質の向上と均一性への努力も続ける必要があります。

市場関係者からの本県産農産物の評価は高く、それ故、求められるレベルも高くなっています。消費者にそのおいしさを伝える取り組みは、地味な取り組みではありますが品質向上と同様、今後も継続していく必要があると考えます。

平成21年度 第2回卸売市場活性化実務講座について

今年度、第2回目の講座を1月26日に愛知県三の丸庁舎で開催し、株式会社農経企画情報センター代表取締役で流通ジャーナリストの小林彰一氏を講師に「地方市場こそが“地産地消”のキーマンに」～地方卸売市場の目指す方向～と題する講演をしていただきましたので、その内容を紹介します。

1 卸売市場制度はどこに行くのか

中央卸売市場の限界

国の中央卸売市場制度は、大型施設の拠点市場を公設で開設し、業界を管理・監督するという目的で整備してきたが、自治体の財政難による施設整備の遅れやさまざまな取引規制により、中央卸売市場であるための弊害が多くなった。



講演する小林氏

流通の最適化

パソコンのディスクの最適化を行うように、市場流通の最適化に取り組み、様々な流通形態の中からどのような方法を重視し、それを効率的に行う体制を整備しなければならない。

(例) 仲卸の直荷について

量販店への対応のため、仲卸の直荷の取扱いが増加している。仲卸が直荷を取扱うためには、開設者の承認が必要であり、事務が煩雑である。直荷の取引が重要であるならば、それが効率的に行えるような体制を整えなければならない。そのためには、必要に応じて法律等の改正も検討すべきである。

第9次卸売市場整備基本方針

“開けてビックリ玉手箱”になるかもしれない。市場流通が大きく変化し、「卸売市場の将来方向に関する研究会」で今後の方向性が議論されているにも関わらず、新たな基本方針の内容に大きな変化がない可能性がある。政権の交代もあり、同じビックリならば大きな見直しがされることを期待する。

2 地方卸売市場が求められるもの

「地産地消」「地域活性化」のキーマンに

消費者ニーズの多様化により、生産者の顔が見える商品や旬のものが求められるようになった。卸売市場も地産地消への取組みと併せて、地域活性化への取組みを推進しなければならない。

(地域活性化の取組事例)

長岡野菜(新潟県長岡地域)の“巾着なす”の販売拡大のために、地元独特の調理方法の紹介と新たな料理法の開発を行い、伝統野菜の生産振興と他の地域での販売PRに活用している。

今後の地方卸売市場は地場生産を活性化して生産を継続させ、地産地消の拠点とならなければならない。

地域内需要の掘り起こし

地域内にどんなお客がいて、その仕入状況がどうなっているかを把握し、何を求めているかを掘り起こさなければならない。その要望内容(単価や量)を生産者側に具体的に提示し、必要に応じて品種や栽培方法の変更も提案することにより、新たな取引に結びつけることが可能となる。(具体的な提案内容でなければうまくいかない。)

市場間ネットワークで相互補完・相互乗り入れ

神奈川県では、「かながわ産品学校給食デー」に供給する青果物の調達のため、卸売市場のネットワークがその受け皿となっている。卸売市場間での商品の斡旋や地場ジャガイモの市場経由での県内各校への提供など、市場ネットワークの構築により、学校給食での地産地消が推進された。

3 地方卸売市場が目指すべきもの

需給調整機能の強化

生鮮食料品の集荷・分荷は機能しているが、量販店との取引の増加により需給調整機能が発揮されていない。このため、従来の八百屋(大量に入荷されたものの特売による販売等)機能を強化するため、小売商にも目を向け、小売チェーンの育成も必要である。

地域活性化の取組み

市場が置かれた状況を認識し、行政とも連携し、必要な施設を整備(産地市場であれば集荷施設、消費市場であれば加工施設など)し、卸売市場が地域活性化の支援ができなければ生き残れない。

お花をさがして、バリへGO!!

東京駐在の花き主産県の行政、JA、花き卸売会社で組織している花き流通情報連絡協議会では、昨年11月から1月にかけて、国産花きの消費拡費拡大と産地・品種表示普及のために「お花をさがして、バリへGO!!」というイベントを行いました。

このイベントは、一般消費者が、主催者から指定された国内産地や花の品種を花屋さんで購入し、アレンジの写真を応募してもらったイベントで、関連企業からの協賛を得て、抽選でバリ旅行や各県の特産品が当たる「一般コース」と、実際に東京でのアレンジコンテストを経て、後日バリで行われる別のアレンジコンテストへの参加権が得られる「アレンジコース」の2コースありました。

特に、「アレンジコース」については、参加者が2月12日（金）に、主催者指定の花材で「バレンタインに贈るお花」をテーマにアレンジを作成し、2月13日（土）と14日（日）の2日間にわたり銀座のソニービルで展示。通りすがりの来場者が審査員となって好みのアレンジ作品に投票し順位をつけるという、通常のコンテストとはひと味変わったコンテストを行いました。アレンジ展示の2日間は、会場の立



銀座ソニービル内の展示会場

地の良さもあり、予想を遙かに超える1000人以上の方々に審査員となっていただき、盛況のうちに終了しました。

長期にわたる不景気のなか、花き業界も何とか消費拡大を図りたい思いで一杯です。そんな中、国内の主産地や卸売会社が一緒に行う新しい取り組みとして、このイベントが立案され、実行委員となった東京駐在の花き産地担当者（主にJA）の努力と花き市場の関係者の幅広い人脈によって低コストで実現しました。

初めてのイベントということもあって、産地の違いや立場の違いでいろいろな課題がありましたが、実行委員を中心に「少しでも花の消費拡大に」との思いで、通常業務に加えて、イベントの打ち合わせや準備を行いました。

JA担当者からは、「実行したからこそ浮き彫りになった課題を、今後の販促活動に活かしていきたい。イベントをやって良かった。」との声が聞かれました。

座して待つのではなく、積極的にやってみる。こういう姿勢を持ち続けたいと思います。



最も人気を集めたアレンジ作品

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋市中央卸売市場（品目：ふき）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円 / kg)		前年の主な他産地 (上位 3 産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
2 1 年実績	1 8 5	1 7 8 (9 7 %)	2 5 5	2 4 8	岐阜 (2 %) 徳島 (1 %)
2 2 年見通し	1 8 0	-	2 7 0	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知産がほとんどで、知多市、稲沢市、愛西市を中心に入荷。 作付面積は前年をやや下回り、昨年10月の台風の影響と、年明けの冷え込み、日照不足から生育は遅れ気味で、入荷はやや少なめ。2月上旬から促成ものに切り替わっている。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。			景気の影響から外食等業務需要が低迷しており、一般向け需要も、調理に手間がかかることから若い人を中心に減少が続いている。 青果の販売では、試食で美味しさをアピールしたり、調理法を普及するなど消費者の関心を高める取組みが必要。 春先の気温上昇に伴い品質劣化が起りやすいため、適時出荷をお願いしたい。		

東京都中央卸売市場（品目：ふき）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円 / kg)		前年の主な他産地 (上位 3 産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
2 1 年実績	3 6 6	3 4 8 (9 5 %)	2 9 0	2 8 2	群馬 (4 %) 静岡 (1 %) 千葉 (0 %)
2 2 年見通し	4 0 0	-	3 0 0	-	注) 静岡はノブキ
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
本県産の入荷が大部分を占める。2月から促成ものに切り替わり3月は入荷が本格化する。現状、品質については問題ない。 2月の入荷は少なめで高値傾向にあったが、ここにきて量販店で198円/束売りと値頃感のある販売となっている。今後、量販店で春商材として特売が増えるが、入荷量の急増は相場維持が難しくなるので出荷量の平準化を望みたい。 入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をやや上回る見込み。			本県産のふきは、春商材として、業務だけでなく量販店からの需要もある。調理済みの惣菜を購入する消費者も多いが、家庭での調理方法のPRも重要となる。 本県産促成ふきは柔らかくおいしいことから市場評価が高い。しかし高温期には傷みやとろけが出やすく市場評価を下げやすいので、出荷にあたっては切り口の処理など品質保持には特に注意して欲しい。		

名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し

名古屋市中央卸売市場

2月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	17年	38,545	205	210	206	200	愛知 27%
	18年	37,491	193	188	199	191	北海道 21%
	19年	37,885	192	181	189	208	鹿児島 8%
	20年	34,903	209	220	208	200	茨城 5%
	21年	35,108	204	198	204	208	
	計	5ヵ年平均	36,786	201	-	-	-
	22年見通し	33,700	217	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>地元愛知と、土ものを中心として北海道から入荷する。昨年の台風や年明けの天候不順から生育は遅れ気味だったが、気温の上昇に伴い回復する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
だいこん	17年	2,201	96	89	102	98	千葉 49%
	18年	1,961	110	106	109	116	静岡 16%
	19年	1,919	79	55	73	114	愛知 12%
	20年	1,509	91	102	85	84	徳島 8%
	21年	1,698	81	74	76	92	
	計	5ヵ年平均	1,857	92	85	90	102
	22年見通し	1,600	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>産地は千葉中心。は種期の悪天候から生育は遅れ気味だったが回復傾向。1月から2月上旬にかけて低温で雨が多かったが、今後は天候次第で数量も回復する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>							
にんじん	17年	2,565	176	188	170	171	愛知 55%
	18年	2,274	136	121	139	148	徳島 28%
	19年	2,677	73	59	79	88	鹿児島 13%
	20年	2,087	169	160	170	177	熊本 2%
	21年	2,432	120	120	122	119	
	計	5ヵ年平均	2,407	133	128	134	139
	22年見通し	2,400	110	100	110	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>産地は愛知、鹿児島に加え、中旬から徳島が出てくる。徳島は相当の入荷量が見込まれるが、11月下旬に雨が多く定植が12月にずれ込んだ地域があるため、本格的出荷は翌月になる見込み。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

2月22日 現在

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	17年	129,688	235	244	233	229	千葉 15%
	18年	131,816	222	222	222	223	北海道 13%
	19年	131,085	222	206	218	242	茨城 11%
	20年	130,238	238	250	238	228	愛知 11%
	21年	128,245	236	231	238	240	(愛知産比率 11%)
	5カ年平均	130,214	231	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	126,000	210	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
前月に続き関東産地からの入荷が中心で、土物類は北海道からの入荷となる。2月に入り天候不順が多くみられ、根菜類以外の品目は各産地とも生育が遅れ気味できている。 入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。							
だいこん	17年	12,593	91	95	91	86	神奈川 62%
	18年	12,698	104	115	94	101	千葉 37%
	19年	12,056	68	52	56	101	
	20年	12,123	86	103	80	74	
	21年	12,517	71	73	64	76	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	12,397	84	88	77	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	13,000	85	90	85	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
前月に引き続き関東産地からの入荷がほとんどを占める。神奈川の生育は2月の降雨で回復しており、昨年より出荷量は多い見込み。千葉の生育は概ね順調である。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	17年	7,169	171	188	155	169	千葉 45%
	18年	7,503	146	141	153	145	徳島 29%
	19年	8,554	77	73	74	84	埼玉 8%
	20年	6,830	189	189	189	188	茨城 5%
	21年	7,862	133	143	130	127	(愛知産比率 1%)
	5カ年平均	7,584	140	144	137	140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	8,200	110	95	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
前月に続き千葉を中心とした関東産地からの入荷が多く、徳島からの入荷も始まる。千葉の生育は順調で肥大も良好である。徳島の生育は前進傾向でやや早めの出荷となる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	17年	2,296	88	85	91	87	長崎 33%
	18年	2,356	72	70	75	72	愛知 26%
	19年	2,411	77	61	79	90	長野 15%
	20年	2,074	112	114	118	106	兵庫 15%
	21年	2,096	103	92	106	111	
さい	5カ年平均	2,246	89	83	93	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	2,000	100	90	100	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知が終盤を迎え、下旬にかけて長崎、兵庫が出てくる。作付面積は前年と変わらず。冷え込みから生育は遅れ気味。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
キャベツ	17年	3,356	124	136	134	107	愛知 97%
	18年	4,343	64	61	68	63	兵庫 3%
	19年	4,088	66	53	69	76	三重 1%
	20年	3,928	93	108	98	79	
	21年	3,869	85	77	83	93	
べつ	5カ年平均	3,917	85	85	88	82	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	3,600	95	90	95	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知中心。他に兵庫、三重。春系、冬系とも作柄は平年並み。秋の台風や年明けの低温、干ばつの影響で生育は遅れており、数量減る見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	17年	547	272	334	264	224	愛知 87%
	18年	556	225	192	200	289	群馬 3%
	19年	423	338	234	469	404	徳島 3%
	20年	532	218	332	159	173	福岡 2%
	21年	378	345	272	371	410	
れんそ	5カ年平均	487	272	274	279	288	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	450	320	350	320	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>産地は愛知中心。冬ほうれんそうはほぼ終了し、春系がでてくる。日照時間の増加に伴う病害虫の発生による品質低下が心配される時期。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろくさい	17年	8,663	80	81	73	85	茨城 47%
	18年	8,294	68	60	67	81	兵庫 29%
	19年	7,334	58	36	73	80	群馬 13%
	20年	6,891	111	103	114	121	埼玉 4%
	21年	7,509	98	86	92	119	(愛知産比率 3%)
	5ヵ年平均	7,738	82	73	83	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	6,800	87	80	80	100		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城が入荷の中心となり、兵庫、群馬がそれに続く。茨城は小玉傾向で少ない。また降雪で傷みが散見される。兵庫は定植時の降雨と12月中旬以降の低温・干ばつで小玉傾向である。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は高かった前年をかなり下回る見込み。</p>					
		<p>ほうろくさいの数量と単価の推移グラフ。数量は棒グラフで、単価は折線グラフで示されています。数量は4月から12月にかけて増加傾向にあり、12月にピークを記録しています。単価は4月から10月にかけて低下傾向にあり、11月に急激に上昇しています。</p>					
キャベツ	17年	13,856	138	150	148	121	愛知 70%
	18年	16,318	79	73	82	81	神奈川 14%
	19年	15,468	79	64	82	92	千葉 12%
	20年	15,244	104	116	108	92	茨城 1%
	21年	15,702	98	90	100	103	(愛知産比率 70%)
	5ヵ年平均	15,318	99	97	103	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	14,500	100	90	100	110		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前月に続き愛知と神奈川からの入荷が中心となる。愛知の生育は台風等の影響もあり大玉比率が少ない。神奈川は春キャベツに切り替る時期だが、生育は低温干ばつでやや遅れている。千葉もやや小玉傾向。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
		<p>キャベツの数量と単価の推移グラフ。数量は棒グラフで、単価は折線グラフで示されています。数量は4月から12月にかけて増加傾向にあり、12月にピークを記録しています。単価は4月から10月にかけて低下傾向にあり、11月に急激に上昇しています。</p>					
ほうろくそう	17年	1,977	318	362	286	304	茨城 27%
	18年	1,988	271	208	282	336	群馬 24%
	19年	1,611	424	344	507	461	千葉 19%
	20年	1,912	289	322	260	283	埼玉 19%
	21年	1,498	402	409	393	403	(愛知産比率 0%)
	5ヵ年平均	1,797	334	324	337	351	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	1,550	360	450	350	300		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷がほとんどを占める。茨城、千葉の生育は概ね順調。群馬は生育初期の低温干ばつで遅れている。埼玉は低温、干ばつの影響が懸念されるが概ね順調。</p> <p>入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
		<p>ほうろくそうの数量と単価の推移グラフ。数量は棒グラフで、単価は折線グラフで示されています。数量は4月から12月にかけて増加傾向にあり、12月にピークを記録しています。単価は4月から10月にかけて低下傾向にあり、11月に急激に上昇しています。</p>					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)		
			上旬	中旬	下旬			
ね	17年	995	283	279	281	287	愛知 33%	
	18年	853	269	289	257	261	大分 16%	
	19年	981	235	227	241	239	静岡 13%	
	20年	889	446	463	448	427	鳥取 8%	
	21年	962	283	303	277	269		
ぎ	5カ年平均	936	301	310	299	295	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	22年見通し	900	300	300	300	300		
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/Kg
		産地は、愛知の長ねぎ、大分、静岡、鳥取の白ねぎ。愛知、静岡、大分は生育順調、鳥取は春作への切り替わりで端境期がある見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
レ タ	17年	1,736	225	242	221	215	茨城 37%	
	18年	2,205	154	169	151	143	兵庫 35%	
	19年	1,755	239	184	249	295	熊本 10%	
	20年	1,897	194	253	197	151	静岡 5%	
	21年	1,632	225	210	225	236		
ス	5カ年平均	1,845	204	210	205	204	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	22年見通し	1,700	200	220	200	180		
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/Kg
		産地は愛知が終了し、茨城、兵庫中心で他に熊本など。兵庫は生育が遅れ気味だったが、今月に入って順調に出荷できる見込み。小玉傾向で、厳しい販売環境が続くことが見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
き ゅ う	17年	1,698	263	314	241	236	愛知 50%	
	18年	1,442	340	491	314	257	高知 19%	
	19年	2,316	221	166	233	276	宮崎 17%	
	20年	1,580	259	271	267	242	群馬 8%	
	21年	1,349	369	511	385	275		
り	5カ年平均	1,677	281	327	279	258	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	22年見通し	1,400	300	320	300	280		
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/Kg
		産地は地元愛知と高知、宮崎、鹿児島。上旬から群馬、長野が出てくる。ひな祭り需要で強含みの展開が見込まれる。中旬以降は数量の増に伴い単価は下がる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ね	17年	5,019	230	254	220	214	千葉 48%
	18年	4,723	232	271	216	210	埼玉 25%
	19年	4,904	161	143	153	190	茨城 11%
	20年	4,320	381	373	382	388	栃木 5%
	21年	4,829	183	215	160	170	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	4,759	234	248	223	231	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	4,700	300	310	290	290		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心となる。千葉の生育はべと病被害のある一部地域を除き概ね順調である。埼玉の生育は順調でやや前進出荷の傾向にある。茨城の生育も概ね順調である。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
し た す	17年	7,167	221	240	220	206	茨城 42%
	18年	8,475	145	157	144	134	香川 14%
	19年	7,106	214	168	213	271	静岡 13%
	20年	8,231	179	235	178	132	兵庫 8%
	21年	7,166	208	202	211	210	(愛知産比率 1%)
	5カ年平均	7,629	191	200	191	187	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	7,200	200	220	200	180		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、香川に代わり、茨城からの入荷が本格化してくる。茨城は玉肥大が遅れぎみであるが中旬以降は回復する見込み。香川は定植時の降雨で作付が少なく上旬は少ない見通し。静岡の生育は順調で玉肥大は良好である。全体の入荷量は前年並みで、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
き ゆ う り	17年	6,498	272	337	241	241	群馬 21%
	18年	6,052	362	556	304	276	埼玉 20%
	19年	6,714	265	285	277	237	千葉 17%
	20年	6,530	273	282	274	265	茨城 13%
	21年	5,806	398	542	396	311	(愛知産比率 0%)
	5カ年平均	6,320	311	394	296	265	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
22年見通し	5,900	350	380	350	330		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地からの入荷が中心。群馬は天候不順の影響で回復は中旬以降になる見込み。埼玉は着果過多で草勢低下しており、出荷量は減少する見込み。千葉も3月には回復する予想。</p> <p>入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

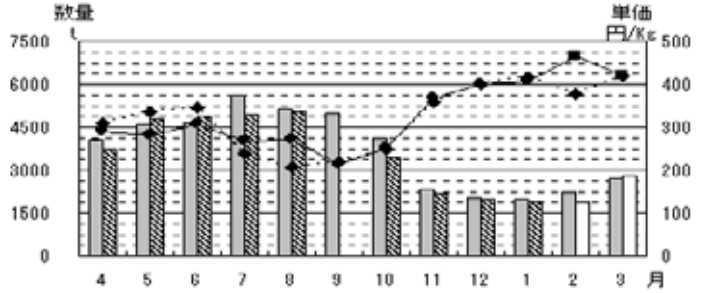
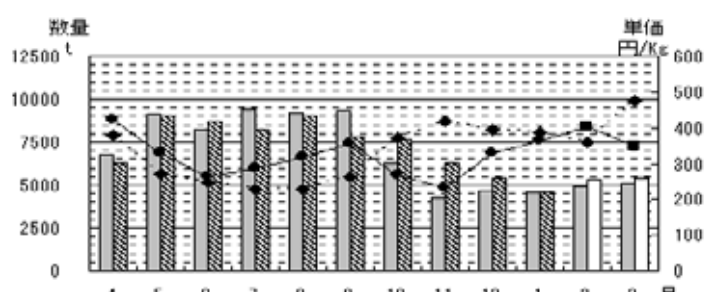
単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な	17年	830	311	339	307	293	愛知 57%
	18年	781	318	350	322	294	熊本 40%
	19年	953	292	296	286	291	高知 2%
	20年	845	318	325	319	313	鹿児島 1%
	21年	638	360	351	387	351	
	5ヵ年平均	809	317	330	320	306	
す	22年見通し	650	320	330	320	310	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		愛知の千両、熊本の長なす。育成期の低温で生育は遅れ気味だが、気温が上がれば生育は回復し、寒さで低迷していた需要も回復する見込み。 入荷量は前年並みとなり、価格は前年をかなり下回る見込み。					
マ	17年	1,213	321	299	317	347	熊本 38%
	18年	1,143	354	339	355	366	愛知 36%
	19年	1,142	414	408	397	437	三重 15%
	20年	1,191	329	312	322	347	岐阜 8%
	21年	1,007	419	415	446	407	
	5ヵ年平均	1,139	365	352	365	379	
ト	22年見通し	1,100	350	370	350	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は熊本、愛知中心、他に三重、岐阜など。作況は不作だった前年よりは良いが平年並み、出荷は遅れ気味だったが回復し今月は数量が見込めるが、入荷量・時期にばらつきが生じる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。					
ミ	17年	251	641	676	615	635	熊本 46%
	18年	229	680	740	668	637	愛知 44%
	19年	235	779	767	768	799	和歌山 10%
	20年	248	680	673	704	668	
	21年	227	791	821	925	694	
	5ヵ年平均	238	712	733	733	686	
ト	22年見通し	250	700	750	700	650	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		産地は熊本、愛知中心。他に和歌山。各産地とも、日照時間の増加、気温の上昇に伴い、中下旬から入荷量増え、単価は下がる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。					

東京都中央卸売市場

「なす」の数値には「べいなす」を含まない。

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	17年	3,354	379	418	391	343	高知 54%
	18年	3,266	372	388	374	357	岡山 22%
	19年	3,767	339	364	337	320	熊本 7%
	20年	3,299	370	383	396	343	佐賀 1%
	21年	2,717	418	425	440	400	(愛知産比率 -%)
	5カ年平均	3,281	373	394	384	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	2,800	420	440	440	380	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		前月に引き続き西南暖地からの入荷が中心となる。高知は気温上昇とともに生育・肥大は順調になる見込み。岡山も曇天で肥大は緩やかだが今後回復する予想。佐賀は概ね順調で草勢良好である。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並みの見込み。					
ト マ ト	17年	6,160	353	338	348	368	熊本 23%
	18年	5,784	381	370	385	388	栃木 18%
	19年	5,852	445	440	414	476	愛知 11%
	20年	6,065	365	344	363	385	茨城 9%
	21年	5,052	478	473	493	473	(愛知産比率 11%)
	5カ年平均	5,783	402	390	397	416	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	5,400	350	360	360	330	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		前月に続き熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。熊本は概ね順調だが、天候不順で空洞果の発生が多い。栃木の促成長期どりは小玉傾向、半促成タイプは概ね生育順調。愛知の生育は概ね順調。 入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。					
ミ ニ ト マ ト	17年	939	587	638	565	563	愛知 31%
	18年	967	635	721	616	584	熊本 27%
	19年	956	750	763	741	744	宮崎 12%
	20年	918	668	649	681	673	千葉 10%
	21年	910	786	848	945	659	(愛知産比率 31%)
	5カ年平均	938	685	723	708	644	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	970	630	650	630	620	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		前月に続き愛知、熊本からの入荷が中心となる。愛知の生育は概ね順調に回復している。熊本の生育も概ね順調である。 全体の入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込みである。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	17年	609	545	718	566	433	鹿児島 43%
	18年	492	657	688	698	600	宮崎 36%
	19年	586	539	588	562	480	高知 19%
	20年	590	496	542	479	426	
	21年	371	802	782	846	788	(愛知産比率 0%)
マ	5カ年平均	529	590	653	609	523	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	450	650	700	650	600	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/Kg		
		産地は宮崎、高知、鹿児島の前年並みの。先月の天候不順で、上旬まで入荷量減少しているが、中旬から気温の上昇により入荷量も回復する見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。					
ばいしよ	17年	3,790	146	131	148	161	北海道 52%
	18年	4,350	134	108	156	152	鹿児島 45%
	19年	3,349	143	135	142	152	長崎 3%
	20年	3,753	118	114	113	129	
	21年	3,812	131	127	143	126	(愛知産比率 0%)
い	5カ年平均	3,811	134	122	141	144	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	3,600	150	150	150	150	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/Kg		
		北海道の貯蔵ものに加え、鹿児島の入荷始まる。鹿児島は離島のものから産地は徐々に北上。作柄はよいが作付面積は年々減少しているため、大きなピークはなく、高値で推移する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。					
たまねぎ	17年	6,772	103	102	108	100	北海道 86%
	18年	5,387	100	110	110	86	静岡 9%
	19年	6,328	88	89	88	86	愛知 4%
	20年	5,587	80	77	81	81	中国 1%
	21年	5,969	83	83	78	86	
ね	5カ年平均	6,009	91	92	93	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	5,300	140	140	140	140	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 単価 円/Kg		
		産地は北海道の貯蔵ものと、新玉ねぎの静岡、愛知。北海道は量少ないが計画的に出荷。静岡は今月ピークを迎える。愛知はちた・碧南の早出しものと、中晩生種の出始め。数量不足から輸入もの出てくる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	17年	2,124	567	754	576	436	茨城 39%
	18年	1,608	666	698	715	606	宮崎 32%
	19年	2,039	539	583	576	472	高知 15%
	20年	1,916	518	629	485	463	鹿児島 12%
	21年	1,461	811	847	852	755	(愛知産比率 0%)
マ	5カ年平均	1,830	607	695	625	531	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	1,500	630	700	650	550	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		西南暖地からの入荷に加え、茨城からの入荷が増える。茨城は昨年より定植が早まり生育は順調である。宮崎、高知は天候不順で着果不良であるが3月中旬以降にはまとまって出る予想。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。					
ばれいしょ	17年	8,035	124	117	124	129	北海道 74%
	18年	8,040	126	122	125	132	鹿児島 21%
	19年	8,750	120	114	118	127	長崎 5%
	20年	9,988	102	101	103	102	
	21年	8,989	123	116	130	124	(愛知産比率 -%)
い	5カ年平均	8,760	118	113	119	122	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	8,200	135	135	140	125	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		北海道からの入荷が中心となる。北海道は計画出荷の終盤であるが、昨年より入荷量は少ない。鹿児島は遅れていた離島の出荷も加わり少なかった昨年を上回る見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。					
たまねぎ	17年	10,182	127	126	131	125	北海道 80%
	18年	9,861	111	111	112	110	静岡 12%
	19年	11,679	102	104	101	100	佐賀 3%
	20年	10,940	95	92	96	98	長崎 1%
	21年	11,059	99	92	98	105	(愛知産比率 1%)
ね	5カ年平均	10,744	106	105	107	107	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	10,400	125	155	120	100	
		産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し					
		北海道からの入荷が中心で、静岡からの入荷が増加してくる。北海道は計画出荷の終盤に近づいているが、出荷量は前年を下回る見込み。静岡は露地物が中心となるが低温干ばつで肥大が遅れ気味。 全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。					

名古屋市中央卸売市場

単位：入荷量 = トン、卸売価格 = 円 / kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実計	17年	19,483	285	290	297	272	フィリピン 21%
	18年	14,742	291	297	302	277	青森 20%
	19年	11,627	373	385	366	366	愛媛 12%
	20年	11,219	321	315	316	333	愛知 9%
	21年	10,735	320	322	318	321	
	5カ年平均	13,561	313	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	10,900	300	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>柑橘類、りんご、いちごを中心に入荷。みかん、いよかんの入荷量は潤沢だが、りんごはかなり少なめ。景気低迷を反映して消費は鈍く、厳しい販売環境が予想される。</p> <p>入荷量は前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
りんご	17年	2,050	299	291	298	308	青森 99%
	18年	2,027	252	251	249	254	長野 1%
	19年	2,251	270	262	268	283	
	20年	1,896	261	262	261	262	
	21年	2,142	223	225	216	226	
	5カ年平均	2,073	261	258	258	267	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	1,900	230	230	230	230	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森の「ふじ」を主体として入荷。キズなどの下位等級品が少なく品質は良好で、輸出向けの引合いが強く入荷量少なめであることから、市場での引合いは強い。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
いちご	17年	1,656	1,095	1,267	1,036	1,006	愛知 57%
	18年	1,845	901	1,060	885	796	熊本 22%
	19年	1,745	929	1,149	912	757	鹿児島 11%
	20年	1,686	852	876	840	841	三重 4%
	21年	1,393	921	1,036	1,034	770	
	5カ年平均	1,665	939	1,079	937	834	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	1,400	900	1,000	900	750	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に熊本、鹿児島から入荷。上旬は端境期で一時的に入荷量減り引合い強くなるが、下旬に3番果のピークを迎えると価格は下がる見込み。</p> <p>入荷量は前年並みで、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
果実計	17年	40,690	394	398	385	399	青森 20%
	18年	41,594	349	353	398	399	愛媛 17%
	19年	37,045	420	436	412	410	フィリピン 13%
	20年	38,945	349	343	349	356	熊本 6%
	21年	38,540	349	351	349	347	(愛知産比率 1%)
	5ヵ年平均	39,363	372	-	-	-	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	40,000	320	-	-	-	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>りんご、中晩柑、いちご中心に入荷する。みかん類は終盤となる。露地物に切り替わった「不知火」は、入荷ペースが早まっており潤沢に入荷する見込み。 総入荷量は前年をやや上回り、価格葉前年をかなり下回ると見込まれる。</p>					
りんご	17年	6,333	282	278	284	284	青森 96%
	18年	6,760	236	232	238	237	長野 1%
	19年	7,696	262	256	263	268	山形 1%
	20年	6,705	258	257	261	257	秋田 1%
	21年	7,907	216	210	218	219	(愛知産比率 -%)
	5ヵ年平均	7,080	250	245	252	252	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	7,500	220	220	220	220	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森の「ふじ」中心に入荷する。春先の天候不良で花付きが悪く、今年の貯蔵量は例年よりかなり少なく、小玉傾向が強い。 前月と同様、入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を並みと見込まれる。</p>					
いちご	17年	5,891	1,178	1,337	1,122	1,091	栃木 29%
	18年	6,760	984	1,141	987	872	福岡 19%
	19年	6,503	988	1,207	987	810	佐賀 18%
	20年	6,269	923	937	913	918	茨城 11%
	21年	5,368	1,015	1,189	1,071	866	(愛知産比率 3%)
	5ヵ年平均	6,158	1,015	1,159	1,012	909	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	22年見通し	5,300	1,000	1,200	1,000	900	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>栃木中心に福岡、佐賀から入荷する。栃木は2月中旬の低温で生育が停滞したが、気温の上昇とともに入荷は増加する見込み。福岡は3月上旬に一時減少するも概ね安定入荷が見込まれる。 入荷量は前年並と見込まれ、価格も前年を前年並みと見込まれる。</p>					

切花・鉢花の3月の見通し

切花（地方卸売市場ヤマエ生花市場）

2月24日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	17年	1,057	69	
		18年	998	62	
		19年	949	59	
		20年	994	59	
		21年	936	59	
	5ヶ年平均	987	62		
22年見通し	950	62			
概要	愛知、沖縄を中心に入荷。愛知は作柄も良好で、前年を上回る入荷が予想される。沖縄は黄系が主力で前年並みの入荷だが、雨量多く病害虫の発生が懸念される。価格は彼岸需要により上・中旬は堅調、下旬はやや鈍い動きとなる。				
小 ぎ	実績	17年	1,145	30	
		18年	971	32	
		19年	902	36	
		20年	1,009	32	
		21年	1,086	34	
	5ヶ年平均	1,023	33		
22年見通し	1,050	35			
概要	沖縄中心の入荷。作柄は順調に推移していたが、2月の多雨で一部病害虫が発生したため、入荷量は前年を下回る見込み。色別では黄系が多く、白系は不足気味。価格は彼岸需要により堅調、少なめの白系は強めの動きとなる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	17年	753	46	
		18年	777	46	
		19年	649	55	
		20年	790	41	
		21年	668	45	
	5ヶ年平均	727	46		
22年見通し	670	48			
概要	愛知、長野、和歌山等から入荷。冷え込みの影響で生育遅れていたが、気温上昇とともに回復し、前年並みの順調な入荷が見込まれる。価格は卒業式・彼岸等の需要増により堅調な動きが予想される。				
か す み	実績	17年	163	63	
		18年	178	61	
		19年	111	84	
		20年	153	54	
		21年	132	61	
	5ヶ年平均	147	63		
22年見通し	134	65			
概要	和歌山、高知、熊本等から入荷。冷え込みの影響で生育遅れていたが、前月後半から気温上昇とともに回復し、前年並みの順調な入荷が見込まれる。価格は卒業式・彼岸等の需要増により堅調な動きが予想される。				

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	17年	174	204	
		18年	196	197	
		19年	164	219	
		20年	198	187	
		21年	175	204	
	5ヶ年平均		181	201	
	22年見通し		175	205	
概要	高知、愛知、岐阜等から入荷。てっぼうゆり、すかしゆりは作付面積減少により少なめの入荷となり、彼岸需要で強めの動き。オリエンタル系は南半球の球根作付で品種のパラエティーに富む。入荷は前年並み、価格は需要増で堅調な動きが予想される。				
洋 ら ん	実績	17年	298	71	
		18年	333	66	
		19年	318	77	
		20年	265	83	
		21年	246	81	
	5ヶ年平均		292	75	
	22年見通し		240	85	
概要	徳島、愛知、高知を中心に輸入ものも入荷。デンファレは前年並みも、コショウラン、カトレア、オンシジウム等はやや少なめの入荷で、全体では前年を下回る予想。価格は卒業式、彼岸、ブライダル等の需要増により引き合い強く堅調な動きとなる。				
ば ら	実績	17年	407	79	
		18年	401	86	
		19年	391	83	
		20年	374	87	
		21年	405	84	
	5ヶ年平均		396	84	
	22年見通し		405	85	
概要	愛知、岐阜、和歌山等を中心に入荷。入荷量は前半やや少なめで推移するも、後半は気温上昇に伴い増加し、前年並みの入荷が予想される。輪ものが多くスプレー系は少なめ、価格は卒業式・ブライダル等の需要もあり堅調な動きが予想される。				
枝 も の	実績	17年	1,161	37	
		18年	1,249	39	
		19年	1,222	40	
		20年	1,133	37	
		21年	996	40	
	5ヶ年平均		1,152	39	
	22年見通し		1,000	42	
概要	静岡、長野、愛知を中心に入荷。前半は促成もののサクラ、コデマリ、ムシカリ、アカシア、後半は彼岸用のシキミ、ヒサカキ等を中心に入荷する。価格は、彼岸、花展等の需要増により堅調な取引展開が予想される。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
鉢花 I	実績	17年	20,779	563	
		18年	18,541	553	
		19年	16,275	489	
		20年	13,789	551	
		21年	10,378	580	
	5ヶ年平均		15,952	546	
	22年見通し		9,000	550	
概要	<p>生産量の減少傾向は続いているため入荷量も減少か。上旬から入荷増となるが5号鉢中心となりそう。 昨年3月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(75%)、2位長野(21%)、3位埼玉(3%)となっている。</p>				
鉢花 II	実績	17年	41,818	2,836	
		18年	41,212	3,009	
		19年	38,908	3,283	
		20年	41,043	2,902	
		21年	34,247	3,155	
	5ヶ年平均		39,446	3,030	
	22年見通し		35,000	3,000	
概要	<p>入荷量は昨年より大輪系を中心に1~2割増か。単価は厳しい動きとなりそう。 昨年3月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(67%)、2位宮崎・福岡(6%)となっている。</p>				
鉢花 III	実績	17年	105,607	214	
		18年	100,296	216	
		19年	90,695	221	
		20年	97,856	227	
		21年	95,017	217	
	5ヶ年平均		97,894	219	
	22年見通し		95,000	210	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。依然、覆色系と大輪系に人気があるが、単価は厳しい動きとなりそう。 昨年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(70%)、2位岐阜(21%)、3位三重(4%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	17年	140,232	202	
		18年	108,684	243	
		19年	95,159	231	
		20年	109,679	188	
		21年	76,721	217	
	5ヶ年平均		106,095	215	
	22年見通し		76,000	200	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。5号鉢は卒業式等のイベントがあるうえ、昨年より生産量が減少しているため、単価の動きは良さそう。4号鉢は昨年同様厳しいことが予想される。昨年3月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(33%)、2位奈良(17%)、3位三重(15%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	17年	155,616	97	
		18年	133,954	117	
		19年	124,529	134	
		20年	124,021	118	
		21年	100,148	123	
	5ヶ年平均		127,654	117	
	22年見通し		110,000	120	
概要	<p>変わり咲き品種の入荷量が増える。特に4号鉢が入荷増か。鉢サイズ・色幅が増加したので全体の入荷量増を期待したい。昨年3月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位岐阜(26%)、2位愛知(22%)、3位静岡(19%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	17年	69,612	750	
		18年	69,475	710	
		19年	60,395	763	
		20年	64,144	663	
		21年	47,287	711	
	5ヶ年平均		62,183	720	
	22年見通し		47,000	700	
概要	<p>入荷量は昨年並みか。卒業式等のイベントを狙って入荷される。6～7号鉢が品薄状態か。昨年3月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(60%)、2位岡山(16%)、3位静岡(7%)となっている。</p>				

主要農林水産物の輸出入実績(2009年)

1 輸入実績

品名	1 2 月						1 2 月 まで の 累 計					
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
	トン	%	千円	%	円/kg	%	トン	%	千円	%	円/kg	%
野菜(生鮮・冷蔵)	55,712	108.5	5,443,966	102.3	98	94.3	554,100	105	57,748,653	95	104	90.8
トマト	197	121.2	62,593	136.4	317	112.5	2,338	118	636,134	110	272	92.6
たまねぎ	20,757	143.4	794,133	148.4	38	103.4	207,575	113	7,877,315	124	38	109.7
にんにく	1,636	96.3	248,613	150.0	152	155.8	19,842	99	2,072,340	103	104	103.9
ねぎ	3,170	99.3	296,416	114.0	94	114.8	32,563	97	3,276,305	96	101	98.5
ブロッコリー	913	47.9	155,155	49.2	170	102.8	29,540	91	4,805,976	85	163	93.6
結球キャベツ	193	9.5	7,490	12.0	39	126.0	13,055	223	469,961	221	36	99.3
にんじん・かぶ	1,934	68.0	67,797	67.6	35	99.5	41,818	97	2,117,463	75	51	77.5
ごぼう	3,208	82.2	149,220	96.3	47	117.2	36,631	82	1,600,068	70	44	85.8
えんどう	242	171.0	64,252	202.4	266	118.4	1,098	110	244,706	117	223	106.9
アスパラガス	1,007	93.1	678,474	90.5	674	97.2	10,780	103	5,984,639	95	555	91.6
まつたけ	26	158.5	80,009	109.6	3,064	69.1	1,596	120	6,357,765	95	3,984	78.9
しいたけ	908	94.9	215,198	97.0	237	102.2	4,722	101	1,106,749	95	234	94.7
かぼちゃ	16,913	120.9	1,189,316	108.1	70	89.4	105,301	105	6,408,056	84	61	79.9
果実(生鮮・乾燥)	133,347	93.5	12,710,966	83.4	95	89.2	1,991,265	108	223,302,991	96	112	89.4
バナナ	86,340	91.5	4,668,077	73.8	54	80.7	1,252,611	115	92,573,084	112	74	97.6
パイナップル	13,184	123.6	729,680	121.7	55	98.5	143,981	100	9,458,291	106	66	106.8
レモン	2,635	62.6	335,221	64.5	127	103.1	51,428	90	6,045,008	56	118	62.9
オレンジ	2,827	103.1	284,624	92.2	101	89.5	94,411	97	9,214,339	93	98	96.5
グレープフルーツ	10,490	73.5	1,129,079	69.4	108	94.4	178,902	97	16,025,353	94	90	96.5
メロン	1,841	87.1	222,176	91.3	121	104.8	29,493	95	2,967,704	85	101	89.8
ぶどう	714	124.8	184,504	121.9	259	97.7	7,550	114	1,408,069	95	187	83.2
キウイ	-	-	-	-	-	-	58,501	99	19,651,989	101	336	102.5
いちご	24	98.4	22,952	90.4	972	91.8	2,992	91	2,660,010	80	889	87.7
切花(生鮮・乾燥)	4,574	111.3	3,198,102	104.2	699	93.6	38,543	107	28,204,568	97	732	90.8
鳥獣肉類	142,006	98.2	57,900,966	86.2	408	87.8	1,601,736	90	682,106,725	80	426	89.4
牛肉(くず肉含む)	42,747	114.4	16,139,822	104.2	378	91.1	481,814	105	186,469,233	84	387	79.9
豚肉(くず肉含む)	61,402	90.0	32,172,135	89.7	524	99.7	702,942	86	368,396,997	85	524	99.4
鶏肉	32,191	101.9	5,880,962	51.9	183	50.9	331,091	78	77,117,072	57	233	73.8
水産物(生鮮・冷蔵・冷凍)	178,384	100.3	85,245,810	87.7	478	87.5	1,765,071	93	919,662,382	83	521	88.8
まぐろ類	19,949	119.0	15,835,625	112.6	794	94.7	210,628	99	181,450,093	87	861	88.0
さば・さんま・あじ・いわし	24,971	72.7	4,501,117	54.1	180	74.4	116,923	89	20,173,397	79	173	88.8

2 輸出実績

果実(生鮮・乾燥)	5,304	97.8	1,392,828	88.6	263	90.6	28,553	85	8,422,075	79	295	93.6
うんしゅうみかん	215	174.9	39,484	119.3	184	68.2	2,648	78	355,449	76	134	97.2
りんご	4,816	97.5	1,196,278	88.7	248	90.9	20,929	83	5,416,472	73	259	88.3
なし	18	26.6	9,765	29.2	530	109.5	1,683	111	678,509	102	403	92.0
野菜(生鮮・冷蔵・乾燥)	-	-	356,174	64.6	-	-	-	-	3,060,720	78	-	-
緑茶	188	108.1	315,948	97.4	1,681	90.1	1,958	115	3,421,968	102	1,748	88.9

資料 農林水産省大臣官房統計部「農林水産物輸出入情報」

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数 (全国 平成17年 = 100)				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	20年平均	101.7	104.7	102.4	106.9	105.5
	21年 8月	100.4	110.4	105.3	105.0	105.3
	9月	100.4	111.3	101.8	105.1	103.6
	10月	100.0	98.5	98.2	104.5	103.1
	11月	99.8	94.5	91.9	104.7	102.1
	12月	99.6	95.7	90.6	104.3	102.6
	愛 知 県	20年平均	101.7	100.9	101.6	104.8
21年 8月	101.0	109.2	108.7	103.1	104.3	
9月	101.0	110.3	107.3	101.5	102.3	
10月	100.5	100.7	97.4	101.5	105.4	
11月	100.2	95.9	93.2	103.7	101.3	
12月	100.0	95.0	96.0	102.6	102.0	

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	20年平均	97.7	94.7	104.8	100.8	101.6
	21年 8月	97.8	98.3	107.8	100.5	99.0
	9月	96.3	99.5	103.4	78.8	98.3
	10月	90.7	96.4	81.1	89.4	98.8
	11月	90.6	97.1	82.3	91.1	97.2
	12月	92.9	97.5	93.5	83.8	98.9

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一品種、 「コシ加」 以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
20年平均	2,212	150	170	637	420	272	143	331	191	558	605	208	494
21年 8月	2,240	136	187	663	542	427	210	359	231	487	562	182	708
9月	2,240	166	217	661	465	318	189	372	232	473	759	224	-
10月	2,232	131	154	700	295	320	128	343	205	460	623	212	-
11月	2,232	111	125	660	331	294	109	316	202	531	570	209	459
12月	2,240	102	106	563	434	305	109	268	217	608	606	209	425
品目 単位 年月	みかん	グレープフルーツ	オレンジ	いちご	バナナ	キウイフルーツ	緑茶(せん茶)	カーネーション	きく	バラ	豚肉(ロース)	牛肉(ロース)	まぐろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1本	100g					
20年平均	553	346	408	150	261	669	614	163	172	328	230	824	492
21年 8月	-	309	398	-	254	752	611	165	182	318	224	780	487
9月	1,038	332	408	-	239	692	609	163	170	320	220	743	477
10月	530	298	404	-	248	702	588	162	166	323	216	744	484
11月	457	310	398	-	247	738	588	159	166	329	232	752	487
12月	453	303	405	173	246	676	609	162	171	349	221	754	479

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 441
平成22年3月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417